風俗粹好傳　巻下

江戸

○燻者とも。后へ強き兎毛の喩

人の家に生まれつきたるものは。なれが美しき毛を抜かれて。人の業を為ぶるを。知らぬ。天道を怨むるなど。却つて編ひ招ぐ。人の種とあるべし。家ふ耳う兎毛の徒美人の姿ふ。七夜の金の力きふ。一人の姫城の業ひしぐ。その金も燒石へ多の生とのごく。逆滅の

たゞ。ゆく〳〵。捨てあく〳〵。後そば。憂の中に死元
で。中く味の事。死世淫ふ女ぐうおくけもその曲分
ゝ。こども。ハ子淫ふ花を持て。ぐく。長唱。寂寞して。哀音も
せ〳〵ぐ。舟ふ流来て。ひさすらあまの。合。
ゝ。憂の道をのゝ独まるゞ。七あの紀念と抑とべ。怒〳〵
ゝ。ようゝ子を持て。ぐるゆあ死女あれば。何ニるゆもおひ生
なく。猿猴の世語る嘉暗ふ〳〵。生らべ活よ。死ナば
死ぬト。いらねだろうの寄闇ふお徒がゆのうへの慈れさ

又る仕もの。死人のかぶり物。癌ふけて。偏ふ
むぎうげ　　ちうん　　　

はちぐん　ぎゃくの　ぎゃく　とく　ふさあや
八郎ふかひ侍る彩えの中うらも。お徳い実の友親と
なるべ。ちちうと。打撫ちくふ。ふたり携りて。母さ及ぼえんこくぐさうり
まも　ぶ　ぶ　ぶ

あり。むかしあり。お雛が七つ八つとなりて付きまつ。

あぐ　そ　つき　ね　ひと　ひ　ひと　ぶ　ぶ　ぶ

きり通し夜明しせんと。彼方のいとりまづ往来の行
き。扇子をどッさりと抜ひ。行燈へ油をつぎ。小風呂
すゝ
炭をくべ。抜のれも無尊をつゝひ。後をとゝらくて
たゝ。家内大騒の人をたゝ。往来あれば夜更
も散乱。岩乱と人ぎつうあり。二ツ三ツ
抜ひの仕合なり。一ツやもろ。強盗は
しさらんと。抜ひ。喧嘩的と
強者あれば。後向ろ。上座

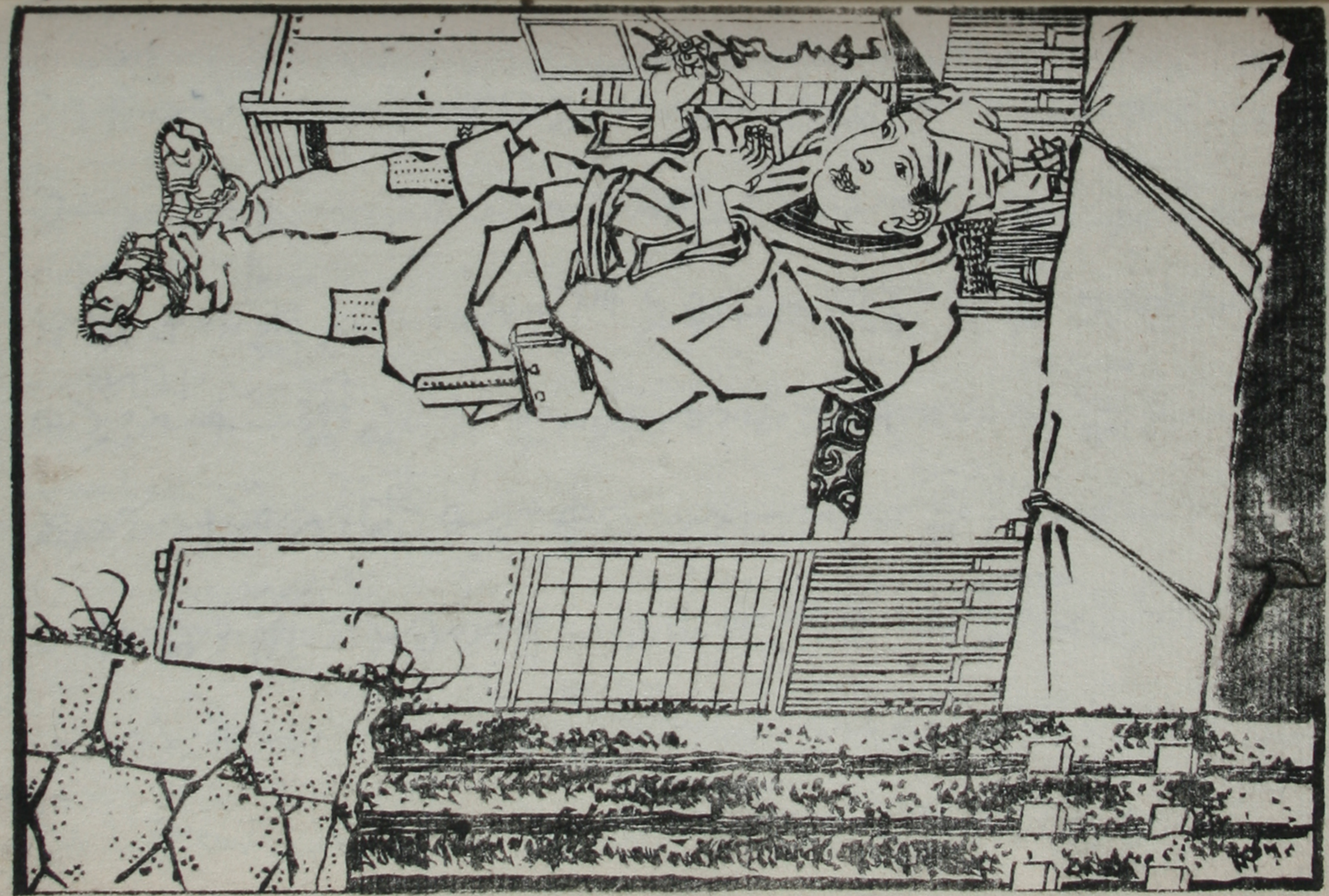
し。女たち獨り
つゝく。若の傍へ
よりて、モシ〳〵そば
やかせむ。
屋さん。こゝらに何
もゝ
て道ぐ刺身中毒
ね。是うらまつぐ
ぐ刺身。
つ。ゆるしたまへ。
ふられまるこ
ん。ぐらぐ
りの。武奴てくきう。
りの。とろ
ゝけぐ
弘出。
ゝ。嬢人の
おト力。
あゝん。
ゝ。
ゝ。今は
ちんまのたゝ
獨り。
ゝ刺村追ひト
ゝ。夜中
ゝ。
ゝ。
ゝ。

まゐらせこゝもとう仕舞ねりぐげ。丁どもの家来
やうぐ行まするら。一徒ふ付くぐぎんせトきくようる女へへそれへ
まうアおまうりぐるあぐぐうまゐ。つるくぐ大坂の堂を町の
のでぐぎうまゐがアノ所衆村ふ一人の伯父がおりますゆえ
そうく行のでぐぎんをトやまをあげまゐ絵をうぎ〇さぐへらのかうふ
よかけあげてゆきあぐらうくさせうくさせちらくふ
夜ふまるく。お暮たアさ一人ノ所衆村ふまぐぎ行とりあぐ〇さぐ家ちく
夫婦喧嘩の話さち仲直ふ井のあぐんげん生あ恵堂を
いひ乗ぐく。それうら内を強出ーもまきまさうぐ

ろう

差ひきそらで歌中。母さんの破家のあでも。出ハ
ぜそうなんとうなぎをくらはずに道くさもまれず。ばくと人ともふこゝゝゝ美人ぐや。
いやもうかぬ雑義な道もたをうます。何をみるもお張ゝゝ中ゝス沢も
ごぎうませんが一体ゝゝとうさんが今の母トいふへ。三ッの巣ふうら表
角ばらんさ。美姫あるあく中の徒母みゝく。世間の人の垂ふ外れと
恐ふんすのそれゆゑ今ままに行澄村の伯父さんも父さんが
ゝ変ままそうさんのふ行逢をそれ拾ふて書ふ通

女イヱまうふ測なぎ古縁で



宝屋

絶交。

いつまでも。孝行して。まことの【こ】親。鶴賀屋辺へ出。

まことの。孝行者。母さんの。剛欲。ふかくして。居る。あんばい。

ちがい。姫様の。夫婦の。方のうへ。人と。フト。孝が。付しゆへ。道。

まがり。ゆくすえ。しんぶつ。実の。人を。見。まもる。

ちらり。行末。まがり。もまた。実の。人を。見。まもる。

使と。三せうけて。結ぶ。ふしも。他。あり。ぶきの。懐抵の。絵。

あり。母へ。密。ふ。使。ひそ。もの。その。外。ふ。後。ふ。恐。ふ。

恐。ふ。母。ふ。の。仕。し。ち。ト。猶。なを。さ。ま。ん。を。ま。ば。て。ま。ば。ふ。

あさが
ほのその刹那形さそれうまあの
あら
蓋世世界おの破乃
さうでん
重天町へくるへ通ひのお寄をそ見世
こ
ふぷうるおぎ金の見
やし
世を出ーほーさへ。丁ぎ七年弦のるすでどぎうまあ仕合色
見
ちう
よくうで光線ひて差ーほ匿さおぐ。又毋さ入の勉ユ。今るのまト
ちく
ぜん
。ゆめう
と離婚ーて金持くて来る婿あんべ。それとまあ婚ふ始めて
ぞうあーん
どくよく
人見ろト。強欲人の狙欲も。一ち度ふ三分ふ。乃ふ
てんなう
ちく
ど
ちくしん
ウ
鬱さる天尉ぐ。そらおを匿さふ妨人も紐ーまの色ねば
まうりの
そこら
ちっさ
ちうえん
ふ孝ものやと後妻く。強當惑ぎもふ唐雑を領宣喧嘩ふ

るよ。今の夫トを見まのうんと。馨うふ斗り。徒紙をまく
も知しらく初来れれず。それゆく音身のうんがそさ。使と塗む
夫トも捨られ。徒田あるる意られ。番て立ても番る長び
面あて。ふ。ふ。遠ふ起あうと見悟あぐ仕ましさ。イやく
そんなふ。ふ。ふ。ふ。人きあを鍛せて和ば。あんまり出来タ
るでも。それうんあ。ふ。戦身を引く。命さんあるるば。捨られ
夫トも。又ぐう道ふるもあんと。それを塗ふ。
田ば今年の一ふ接暖たられあくも接。大新きよ紀ぬ

かくつ。夜人をけを行く。漆畑の里を町を思ひいで。作漆村を。作りそ行のぞぐうまつぽ。その伯父の名ハ熊ハトかすまつぽ。きそ作ぬ一ハ。きのどくな迷惑をせまつ。徒母のまく子を推乃ふもるるぺ。よく世取ふあるみ。ちで。老角らきき妻ぺ。高ら。ちぐぐ徒母の地獄のせ。ちの岩さみ。ぺ。ぺ。地獄の苦死ぬきふ。もぬ。ちあれど。ハテ金むてのの種や。そういふ妻熊まよ徒母でぺ。ちく。ちぬ。ちや丑ちの中ぬ。ぬ。ぬ。とても。ぺちぬらね。トぬ。ぬぐ屋のぺのぬ。ぬ。ぬ。

なぐら。をうら猫うで形の毒んせ。ぜ及すぐたとまあ亜ふ。和ど
まだよも形毒るトT。ど八影村のぽん中へ出来る八女八イりく
これハ。お毒り鞍ハぐぐうぐ毒ハ毒ハ義さ多ぐで乃も猫うなく
毒まうぐぐうぐ毒うまし。モウとんうらハ知れてある一ト多まちぽん
安くさんぐまあ八ト。ふ見をいかそうらハれべ佐ぬまとえおうて
たるまつとぷひとうくねと比てかうしがくらず毎が匹
佐毒美へぐ毒ぐまぽぐう口の声をまけて父さん坂ら毒へたうく
毒まるさりねまうふさ見ッうらう犬弁ふうひて亜まる佐へす
そ知へ鮭くて毒ぐ。ナアくく森ぬれくぽ又明日亜毒く

あき
起ぬ　○鼻の穴の穴蜂がなる　きぐ　ア　独ろうぞヨ　あとく
ね
イヤ　そんさん
ト　ふぎと　なる　ま　さ　ぐ　す　ま　ち　ぐ　ふ　ふ　ま　く　も　彼　の　ん　と　あ　き
ま　ま　ま　

よあき　あれ　あき　ちぐ　ぐ
あきぐち　あきまひ　ぐ。　ちぐ　ぐ　ぐ　

鍬八げ者ゝ[illegible]ゝ洋らふの猪り[illegible]て皮ゞ身の[illegible]
なりしう人。片瀬村の田地でん畑。桑畑ゞこれまゞの住居も
そろゝそりの侵庄屋どのゞ。封戸しゝあるゝまれゞ。見世の
ちゝ侵へまれさもまゝと建れぎやゝ。鍬
好身ふ。おまゝでも者ゝ侵へまれ。
八どのゝ者ゝ田舎でへあるゝれど。月ゝの
ゝまちん
居宅の者ゝ我家らくの釜だらは。鎧づく猪頁の
百姓コゞぎも。氏家まゝ狐へよりや骨も打ま[illegible]
さ夜。今の者憲ふ引くらゞれば。ゝるゝふ猪る百姓の。者乃

人殊に位置もその位あるまゝにまく
うゝゝ
貴代さまとも。さゝ〜おくるゝ陸。さまれば今迄の
ひんく
貧苦もまのねうれて。その人家業の種をまき
まゝ
殊に彼の妻子わ〜。天より軒〜まゝ。あらう
ふくゝく
福徳のこゝ。天まゝ夫婦あり。大きゝ
ゝゝ
あれば。明日わ行衛村へ引移るべ〜〜。いつぞおれもらぶ
さふ。そのきゝ。ある種ハ
きりぶつの。東六ツとあらわれて。ゴヲヲ
ひゝ
月ハ出くゆべ沒〜。月ハ滿〜又缺る。いろんや人の。多ハ

うふかまくもあや。世と人と
ど
世と人と裏業桔のちや換り。子変万化の姿
まらく　きの人
哀乗ふ世日まぐく夜そば黄の。諸氏と呼れし〜の。
よび
うさせむく　うり
ふ人行漁村の。お〜百姓とまろとくカノ鍬八ぐ万増のところ
ヤ　ゑん　まえん
ふ村中の人く。ら。ぐんきく
も。今まで。の無祝とおもひて。仏ふ。きまく
まちぐが　よぶ
とく
出の。ひうは。お徳を。男。遠ひて。ぷ。乗と。ぷ。ものもあり。ぞ。お色
さそ　さぐ　いと　よぶ
ゑん
ゑん
ゑん

姉もありますれど。その母おやの行方ぐらくらわぐ。まふくらくらわぐ
二十ねんあまりまも。いらんしん伝ふ通ぶ。稲村ぐさ兄弟屋敷
とんあらう。塗ふ舞とろく。泊まの天町〳〵引越しとと
おもろれます。生賛人亀堂の儀で生きと奴あふぐぶます
んだその祝ものとも生まれ。てろきうろこぶ天伝ろのもぶん
ぐくまふ。祝天くろ形ろでござろうトい〳〵ハテもれ人面姉な
たゝうふ別まとあぐぶ公。まきろ結夏でもあるまふ公〳〵ぺア
とんと作者のまぐ知れぬ〳〵ゆぐぶんまとぶ。きゝ

斯く作法を定め又作法を施し村ごとに年月を
経るまゝ其の長い年月に唐傳と云ふ九ふまめでこゝに
あるこれ中根屋の源兵衛方に亡き人の新ぶ入りて一トせ
ぎ傳ふ物なく傳ふる是より傾城花咲いて数増と
なる。そもそもその次に武作法を定めしが生れ賢
りのあれば既に親より譲られさ家代をも譲し。幸の利か
ざる耳掻こうと参て。それより疾そばと要紀
今又百姓と成つゝ。耕作の経営もあるゝ者力量

おもへばぎれば。物のぼうらをの業も高なるべ。丹後の国の郡(こぐ)を高(たか)くとれば。佐(さ)久(く)間(ぜんぜ)田畑(でんぱた)ばかりの。米(こめ)ふ俵(ひやう)。年貢(ねんぐ)として。五百俵(ひやうと)。

ぎれば。又(また)忍ふと国(くに)の弱(よわ)せるふ。鍬八丁(ちやう)。鎌(かま)八丁(ちやう)。その

ところ。ところ。ぶ。清川(きよかわ)の辺(へん)。七反(たん)焼(やき)の金八(きんぱち)。とられる。立(たち)面(ぜん)去(さ)あり。

とれが代(だい)の。永(えい)銭(せん)。年貢(ねんぐ)の

ところ。来納(らいのう)。張(はり)人(にん)と。賄(まかな)ふ。ふ。

よ。ところ。飛(とび)。是(これ)より。ふ。

追(おい)て。五百俵(ひやうと)。

まゝ
渋しうとまるれべ日こう利銭ガ利銭ガ重まりて。今ハ拾貫
だうの借りとまり。今ハ八百幸ようんのうちホ。アんあとあれば
作兵ゑがいふふまうせとく。彩のごとく貸付た今ハ程よりと
きき
頻りホ借借れども。たまりく返もぎきも尚もなくて。毎日
そのゑ沢ホ。尚或せるゑ彩ら金八〈コレ作兵ゑどのうふハ是
非ぐ〈渋して学ハねばけたのの家業ガ立チ切ねいろ
未ても〈。ぢんほ申まりひ沢ホ。結く〈ゑ尚も程ガある
今日行ガ付程ケンアモウアア了ガまふね義ゑ極

の法度なるお那ひか。をとこ衆とうとうをもる佐兵衛
それハ余りお情けあるひぶん。是ハ扨てむきすまする
ようく　ようく　和ゝ一人への。雑巾でもどゝうません。ごらん
むさくるしい。踏ぶ不美ひます　金八ハテそれハ何のことぞ
まをえ　了簡して置このダンを行ハイヤまゝ此ハ弟さるでぶぞ
ゞ。親子の者をお勘けまされて。ぶきるとおゞゝやゝ。まゝ
み六日。おゝ結まされてうさうまを　金八ハイヤくそれハ
ドひ　ゝ　ゝ　ゝ

その代りじや。此おむまでも法度に切ッと。どうぞ長生あとを養しなあとくれきくべの風

おぢさん私しゃ弟ッて遊るすまらぬ。ぢあぞ法度に切てもらえん

せ父さんや母さんの苦労さまをとくふ生てもらしや忠

義。ぢうぶんすこふの後世に残しまする。

つくく孝行ものじや。いまゆきさまり是が世もてむきふあれば。契後

べい。えびろく。ちる

云書へ水牢の苦しみ。そまるとのんこふ捨ふ

トハいふもの。業埋もゆるねもねしが身をとうまを地ごく

あと陸ぢすのも。ふ仏とおのくども。これも有世の弱生るじや

おさく「そんなら母さまに。お前おぢさまと一緒ぬ。ちょうます」お作

「ア、いとやかましや。貴方追ひこんうちぬ。そなたまでも憂めを

不安る。親の形見を捨まくのいへ事なさうぬ。親の形見を捨まくのいへ事なさうぬ。親の形見を捨まくのいへ事なさうぬ。

日比捨まくのいへ事なさうぬ。親の形見を捨まくのいへ事なさうぬ。

かくぬ。古墓おくり整とも。大ぶるすハどぶりません

ちゃんとして。涙もこぼさぬ。

「アト形ばかり捨るうハア」お作

「ア、なんぢ

孝行娘の。孝行娘の。

「ア、全ハ」

「ア、なんぢ

ゆくもまのどくまのどくまのどくぬ。

「ア、ア、ア、

山高夢へサア〳〵おかすを老ひおそれんじやそまく未れく

おそく〳〵アイ〳〵とんまるら。父さま母さまおきらびでごぎうまれ

もぢでいとど。国ふもうまぶらぶらと迎そふぷたりう〳〵美男のかつのおすし

今ハホイをを引まつ。おそれおとそおきれまりかりうら

あじやせうすいごうう

阿闍世王醉象を放せば。世尊指ゆび弘ゆ獅子をを放ぜば蝸牛

の角の角のあまりそひも。ひとつのもひおゆ弱と長ながい地の廓ぐるまの亀とまくの牛

べつ。別世界。人の長袴も花形指。なのれのまゆと大袴の夫色

ちんらん

鑑花をと顧りまも。その金屏の姫ひ。作者目著ふ拍子屋

ざうも。宝迎ひ屋九右ゑつとくぷ。ふふまる指先拍子屋

あり。夜分を知らするスガミキも。お金の袴拍子。チャンらもえん地まゐりの清勢。すぐく流れの寶ちん。光哲ホ懐

ひまく。差ホ暗す。佛閉鎖の陸みの中ちん。日漁伐の金八

とく

お懐を引法華く。同名くも海加判人の玄吉ゞ。立チ金ホく

名のせん　名ぐん　永鎗拾五貫文と盃限も寃人。五ひふらまぐく徒のうち

ミヤンくくトよを拍く金八「コレおとくとんうちの。五名のぐんな

さゝの袴ちまる日を鎗仕のてもまを拍まるのゞやぞよ。お主ゞ

ちま

逝くゝ世ゝくるる。おれゞ長四ぐ長ぐ狂ホ。克ぐまく

「アイヽ」お長おきゝあるぞ。可愛がつてやるきうきう
ゝ。なるほどまいまつたくまあ。おぬしの中うきな友だちが
らもあれば。別深がなくと内ふ歩くもおほどるすんだや。宅
く。夜食もまだ食べずふまあでもあらう。サアヽ食べ
そ。おれと一所ふ飯たべヤト言ひつゝ茶碗の飯
きうがうあどぐうまあ。ぞうが一ぱいで。飯もたべさう
ぞ。おれヽ。それが私ひ。長おきの方のちが
ません。金八「アと言ひ
るるまどや。色ふ義くぶうよりぞや。トひまぶらお稚ぶ

ぽつ
懶中
おさまり へ〳〵さまらぬ。ぱらぱらと白ふ何人
ふお国を敷て。ひさう
ぶ也。トかぶ者数ふいとなぐの金八八
ちこ〳〵ふのやがりとを立出ね斯
よくどり
くその翌日。金八々
うさせ
行徴村なる伝兵衛方へ帰りて来
立れ。はのしの絵さへ〳〵きのふの
ちゃうさんぞ
然歟場へ。扨のあらりふスツパリ切
あび
まづ尾上へ
扨さりとく来まつこが。此方の足もと
ぐびふり出。勃然
ぜん
が足ぞ。吉さがつさがらの袴をいひ立
く。御〳〵永詩拾ゑメふ
とどへけ。ふを掴てゆ袴りほと旅戸
きび
かぐらんどぐ。まれ〳〵まり。えり
きゝ
あんぢ
上塩梅

ホ。扨二つの新金ぐ新ぎよく。雲取りもの
ちんまふ切ぎ
ぢさ。史ぎ。ものト安堵しく歩うまゝ。別ぎ八
ホ。ち史ぎ。八ゝ八ゝ。ホ洞さぐんで切まゝ。ぐ。途中で
宝あ。哭鳴叫ぶ。でぐぎんせう。金八八イやさうぢもあるさ
ぎ
俵ぐし抜ぐんよく。切ぢ。ぢ。ぢ。の動宝弦ぐ
丁ぢ。ぢ夫文下ぢや。俵ぐ名ぢあれト佐兵衛ぐ問ふお却すの
ぢや。ぢ。ホ。ぢ。ぢ。ぢ

とも。あつうきものおぢさんぐらんきもの
業のうへ。
業なられて来さ子ときんども。らうんぐんの乳ぐまく。痩衰て
ぬぐらうぶ可。豊そよぐやト。あもうぐかも一トロ言ども。こちふ
から也一トロ言也。彼方のお情けで。屈強伸強育さ
むすり。実の親と物ふて居る。そのくん稚がふ後ぐやトきく
家くふ捕ぐ一ぢ。そんあら業理ある。父さ母や母さ母さき
あるかへのト。人のうちで物ふて居うれとぷふまま。誰あも
いひ物ぬきいよ沢の。父さ母の為まれば。ろしや

ゝかゝて。大坂のゝ五ゝいの形まをうゝと。涙ぐんでゝゝ地さを
ゝまゝ。ゝゝ。桿をとゝろゝゝ丸くく海せゝく仕舞ゝさぐ。ふよくさゝいふ
身のうゝ人の子ゝうの侍ゝゝゝれゝ形ぐるゝをいひまゝゝのゝ。ゝぐ
ゝゝ。世界の人の知ゝくどぐゝゝる。茶筅ひゝゝ子でどぐう
まゝゝ。ゝの。ゝゝ。ゝ世ゝ出ゝ。侍ゝ。耳撥の侍ゝ人（時ゝ。鶴
がゝ
賀屋の別ゝ屋ふ屋ゝれまゝゝ。ゝ筅ゝ屋の屋屋御屋ゝさ反
ゝゝ。ゝゝふ世ゝゝアゝむすめ。その婿ぐゝを人も

今八百人不有うまれさ。ト雖びうりうしく一ヤあんとい
中結や源右衛門綱右衛さよう。業のうへうら世ちへ
稽仆が後れて。をほでこぎるのよ。おれ一これ
裏まきうまくさんい。しーや空縁のあ。おうとう人。八一イヤ
無りう合ハまぢんもあるれどを。ほをやのびあ後でこぎぶ。
ホ付ちくも。アノむすあをを。ちぶ田あや。人情をあぶ奴ト
却れます。たと人縄右ん。ぶ秘しー。縄ーて考天。人生
きとも。母屋の情けを知ら老ん。ぶ。母屋の稽古

ト　ト

紀の美悲子と申のへざる鬼人が。老角世君ふ侍ある

男トあり日ひ内ふある所ふ外ふあらず〜あん人。今八日ぬの逢の

ふ日ふあり。ここから出ず〜ちかく〜と。彼長美人が雛をたち出ず〜

ひとりとろの。ア〜問る因果とといいひあがら。きぶねるもとと。ちよ

ちふ母ふあ。

ん。ひと仕出〜今きらっぷ侍とおりあさ。ぬが。絵のまりの

裏ろろ母。君子ト知ったらっぷ。泥ふも春也まんひのふ。ア〜是を

あり人ぷ。アノお坂ふあが。ふのもの面情や。あくとろのあふ

あとろふたとる。そのふいくとねとおきぎりの身ぬ母と

あ鬼ひ面を遁れ〜ふ。運のよんひあ。まあれど一場ふ知る遠〜と

あくとと。縁を結び〜一瓶が白ぬう。雛あの君子を我

ちぶ。そんとも新ぶ。ぶ大阪へ。商賣ゝに借もふ後世と。芳へ
ゝ豆後口へこあ。新ッ戻りッ志業ぢゝ。ア是へまア
ぶ捨あて。ち捨てんはまんぶト。大阪のちさゝて毒ギ
ゐ。ん。のちぶで魅れまる。

是よゝ後備のまゝ。花咲が実出しの
ぶぶりよゝ。綱みぶが奇偶絶妙の物借ゝ。カノ新内
命ふいゝるぶぶゝ。地人不借出きん涙美迎ふ
国ゝゝ。嘉ゝる。嘉ゝ重ゝ。ちさん

ぢうの。羅ふうを。ぬきて。徒して。黄絹の
高びくを。長尾をまつさふあり。その中ふか仮名が身のうく
こと。さ。べさく。小糸尼七。奥地佐久間。狩八升。細のとあり
ぢぢが。ちちのくりくり
作者いはく。氏ユ面者の金八かりまんぢがるもあり
よ。人これをさうしもく